

出展者

赤坂 直生

寺島 みどり

行 千草

藤川 奈苗

角谷 功次

川野 安曇

小橋 陽介

林 嘉一

奥田 文子

金城 理子

中川 雅文

長谷川 一郎

牧野 かのこ

望月 恵

五島 綾子

岩名 泰岳

沖 晋吾

しまだそう

田中 秀介

長友 紀子

冬耳

石川 丘子

上田 章子

奈良田 晃治

西川 茂

仲摩 洋一

中道 由貴子

中屋敷 智生

松井 沙都子

宮崎 雄樹

Opening Event 3.12sun ゲスト・トーク

日時：3月12日(日)

1部 / 13:00~ 2部 / 15:30~

場所：1部 / 青い家 2部 / 本館

ゲスト：1部 / 永草 次郎 2部 / 京谷 裕彰

ゲストの永草次郎氏と京谷裕彰氏をお招きして作家を交えてのトークイベントを行います。展覧会初日、ゆったりお昼ご飯を食べながらのこのイベントに是非ご参加ください。

harmony 卯

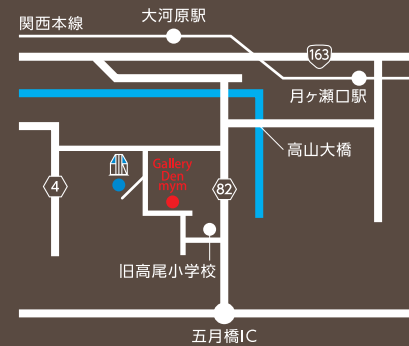
むらびいとおばちゃんたちがむらの食材をふんだんに使ったバイキングでおもてなし。青い家でにぎやかにおひるごはんを楽しみましょう！
※材料がなくなり次第終了いたします。 ※写真はイメージ写真です。



アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

駐車場スペースは充分ございます。会期中、駐車場は旧高尾小学校正門前（Gallery Den mymから徒歩3分）をご利用ください。詳細の地図はホームページをご確認ください。
<http://galleryden-mym.com>



- お車でお越しの場合
- 大阪・奈良方面より : 369号線→4号線、途中左折して82号線
- 京都・三重方面より : 163号線→82号線
- 名阪国道より : 名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

- 公共機関でお越しの場合
- 大阪方面より
加茂駅（JR大和路快速）で乗り換え、月ヶ瀬口駅（関西本線）下車
- 京都方面より
木津駅（JRみやこ路快速）で乗り換え、加茂駅から同上

初日3月12日(日)に限りシャトルバスを運行いたします。

月ヶ瀬口駅で下車してください。

シャトルバス運行表	●行き	●帰り
月ヶ瀬ニュータウン入口	11:15発	17:30着
月ヶ瀬口駅	11:20発	17:25着
旧高尾小学校	11:45着	17:00発

Gallery Den mym

ギャラリーデン南山城村

主催 / Gallery Den mym

協賛 / 京都府地域力再生プロジェクト支援事業、南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012 定休日:水・木曜日

E-mail:gdmy@mifty.com URL:galleryden-mym.com



Big Sensation
2017.3.12sun - 4.1sat
Visual Sensation
参加メンバー総勢30人が集う
展覧会

Gallery Den mym
ギャラリーデン南山城村

AIR南山城村
Artist In Residence



Gallery Den 年表

- 1995 北区扇町にGallery Den設立
- 2002 西区京町堀へ移転
- 2004.5 Visual Sensation vol.1
- 2006.3 Visual Sensation vol.2
- 2008.3 Visual Sensation vol.3
休廊。大阪から、京都南山城村に移転
- 2010.9 Gallery Den mym OPEN
- 2011.3 Visual Sensation vol.4
Air 南山城村“青い家”OPEN
- 2013.3 Visual Sensation vol.5
- 2015.3 Visual Sensation vol.6

Gallery Denを創設して20数年が経ちます。denとは、“居心地よい小部屋”の意。気の置けない私室といった“たまり場空間”を作りたいと思った。絵を描くのが好きで、“絵日記展”をきっかけに「絵は人の心をつなぐ」ということを学びました。二年に一度のVisual Sensation展も2015年に第6回目を納めました。こちらで一区切り、vol.1～vol.6出展者有志によるBig Sensation展の開催となりました。

来たるべき鑑賞のために

詩人・批評家 京谷 裕彰

平面作品、とりわけ絵画に、鑑賞のための時間を取り戻すこと。これが絵画を現代美術として復権させる上で必要な条件であると、つねづね考えてきた。なぜなら、私たちは愛や文化を育む時間を奪われているからだ。現代社会を覆い尽くす鶴(ぬえ)のような経済システムに、時間を奪われているからだ。時間を奪われるということは、無意識のレベルから、私たちの精神生活が蝕まれていることを意味する。精神生活を蝕まれた私たちは、時間とはなにか?自由とはなにか?という問いすら発することが難しくなってしまった。だが、絵画を鑑賞する時間を取り戻さねばならない。時間を取り戻すということは、とりもおさず自由を取り戻すということなのだから。

現代美術の企画展が山奥の(ほぼ)限界集落のギャラリーで催されることそれ自体が21世紀の今、社会的に意義のある事業だといえるわけだが、Den mymで絵画を見るといつも、大都市のギャラリーとは違い、その日はほとんどここを訪れるための一日になる、この時間の偏差に秘密があるらしい。とりわけ別館では、畳に寝転んで絵を眺めるという至福を、自由に味わうことができるのだ。とにかくDen mymと絵画とは相性がいい。その美学的な意義の開明は、私個人の関心事を包み、かつ超えた課題ではある。だがそこに佇むだけで、なにか大いなるものに引きつけられているような感覚に見舞われること、その感覚が開明への鍵になるのではないか。偶然を必然に変える魔法のような力、と言っていいかもしれない。過去の偉大な美術家や形而上学者たちが夢想した力が、現に躍動していることを実感できるような、なにかである。

未だおぼろげだが、それは時間を取り戻すこと、さらには感性を取り戻すことに関わっている、これだけは確かだろう。

六度にわたって開かれてきたVisual Sensationに集った作家たちが七度目にして一堂に会する、この出来事の意義の数々は、絵画への愛が、絵画からの愛が、いつでも、すでに、共にあること、その信頼を私たちが鑑賞を通じて確認するところから開示されるはずだ。

それは、けっして美術の領域だけでは自足しない、そんな当たり前ともいえる事実が現前する瞬間に立ち会うことにほかならない。

Big Sensationに集った作品のひとつひとつから、ひとりひとりの作家から、そして私たちが温かく迎え入れてくれるDen mymから、予示される未来の風景を眺めてみよう。

感覚／感動の実現 -This must be the den-

美術批評・帝塚山学院大学教授 永草 次郎

振り返ると、すべてがこのためにあるように見える。扇町、鞆公園を経て、南山城村。シミュレーションとしてしかない美術のパワーゲームとは一線を画した価値の創造があった。ジャーナリストイックに語られる時代に共通の固有名詞は、美術に関してはひとつの説明のための指標ではあるが、それだけが美術ではないと思う人たちが美術を創造する。ここに集う者はそのことを理解している。情報の重さが消え、アートが神話が崩れた。中心がなくなった。いたるところにアートがあることがわかった。

Gallery Denが20余年、Visual Sensationが6回を過ぎた。ここに集う現代の表現は、ひとつの傾向に偏ってはいない。それぞれが個性的な表現をしていることは言うまでもないが、いくつかの特徴は示されるであろう。

シミュレーションの世界から、実感への回帰：大きな物語を基盤にした批評から、ネットワークの中のトークへ：革新的なイズムの創造から、拡散した多様さとその数奇な遭遇へ：孤独のネットワークのような脱構築された連帯。

Gallery Den開設の1995年は、阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件の年である。芸術では、写真と映像がアートの一部となり、シミュレーションイズムとネオ・ポップが入り混じりながら、もはや多様化としか言いようがなく、また、批評も記号論やポスト構造主義を経て、力を失っていた。さらにやや遅れば、89年ベルリンの壁崩壊、90年バブル崩壊、91年湾岸戦争、ソヴィエト崩壊、92年インターネットの公開、93年非自民政権成立など、既存の価値を揺さぶる大きな出来事が続いていた。20世紀後半において強固であった冷戦の構造は崩壊し、同時にアートのイズムについても、実体のないパワーゲームを遠くから疑似体験させられているに過ぎないということに皆が気づきはじめていたのである。奈良美智の東京での初個展が1995年であったとのこと。同年プリクラの機械が発売され、99年ごろ大ブームとなる。女性の写真家が台頭する。コミュニケーションが時代のテーマとなってきた。

2001年同時多発テロ、03年イラク戦争によるフセイン政権崩壊。Visual Sensation vol.1が始まった2004年は、自衛隊がイラクに派遣された年でもある。その後も中東にまつわるテロや戦争は続いている。

南山城村への移転を経てvol.4のあった2011年は、東日本大震災、福島原発事故に見舞われた。地域社会と現代アートの関わりがテーマとして浮かび上がる時代でもあった。南山城村では、一過性のイベントではなく、ギャラリーが続くという奇跡が起こることとなった。19世紀フランス美術には、テオドール・ルソーとミレーらのバルビゾン派、ゴーギャンやエミール・ベルナルルらのボン＝タヴェン派という都会でない場所の美術活動があったが、Big Sensationに集う総勢30名の作品は、様式やイズムで結びつくのではなく、今ここにしかない多様なセンサーションの共振で結びつく。

筆のストロークが思想を示した過去の時代は、芸術がシミュレーションとして存在していたのであり、Denと南山城村の今は、そのストロークがセンサーションそのものであるということを素材に、そして多様に具現化する。その基盤は村でなければならないのかも知れない。